2021/2/

		関係者評価の結果の概要と改善策		Fo si	DECEMBER 1	k.ar	成果	これまでの取組			学校関係者記入欄
大項目	目標	取組内容	取組指標 4・「おおかわできた」と会参員が回答した	評価	目標に対する成果打	4.	評価	これまでの収組 今後の改善策 〇ALTによる英語カフェを開催し、コ	評価	人数	コメント
フラン		外国語教育指導員を効果的に活用し、外 国の方々とのコミュニケーション能力の育 成等を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。	3		4: 90% 以上		ミュニケーションを行う機会を設定し、 英語に親しむ機会を設定した。各回 とも、40人近くの児童が参加し、主	A	4	ができるのに対して、タブレットでゲームや動画も見られる為、 規制に関しての制度を再度見直した方が良いと思う。 ・各教科でタブレットを用いた授業が展開され、子ども達はこ
1 未来	ション能力、 情報活用能力、ともによったの変化に対 会のやかに対		1:60%未満であった。 4:全教員が行った。	H				体的に取り組む児童が増えてきた。 〇カリキュラムマネジメントを実施し、	A	4	おからの社会になかかに対応する力と目電が身についてきていると思います。 多くの児童が情報ツールを学習や交流に役立てているのは、これからの社会を生きる上で有意義と感じる。
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おおたの ものづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施 する。	3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	3	児童の自己評価 において「タブ	3: 85%		教科横断的な関連性を明らかにする とともに、指導の重点化を図ることが できた。			・情報ツールの持つ負の側面や正しい対処等も引き続き指導 いただきたい。
社		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、I	4:設置教室を使用する全正規教員が週1回以上活 用した。	П	レットを使うこと は、自分の学習	以上		〇1年生の5月からICTを活用した授	в	2	・各学年授業内容に合わせて「ほどよく」タブレットの活用がされていると思います。
会を成創		学力の定者と学ふ息飲の伸長を目指し、I CT機器を活用した授業を実施する。	3:80%以上の正規教員が週1回以上活用した。 2:60%以上の正規教員が週1回以上活用した。 1:60%未満であった。	3	の役に立っている」、「タブレットを		3	業を開始したことにより、低学年から タブレットを活用した授業に慣れる児 童が増えた。	ĺ		
成剧 造 的		他者の人権を尊重する人権教育の推進を 目指し、人権教育資料等を活用した授業を	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。		使って、友達と意見の交流をしている。」の項目	2: 80% 以上	3				
りに生	応する子ども の力と自信を	日相し、入権教育員科寺を沿州した技术を 実施する。	2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	3	で、A(とても思 う)B(思う)と回	ИĽ		○人権教育プログラムを活用し、引き 続き教員の人権感覚を高めていくた。 めに定期的に校内における研修会を	С		
エ き る	身に付けま す。	体カテストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成 し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や 「一学級一実践」運動を実践する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。	3	答した児童の割 合	1.		開催する。			
子供			1:60%未満であった。 4:全教員で行った。			80% 未満			D		
の育		ICT機器を効果的に活用して、互いの考え を共有し、自分の考えを深める学習活動を 取り入れている。	3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。	3				○各教科領域において、タブレットを 活用した授業を行った。スクールタクトなどアプリを活用し、一人一人の考	D		
н	児童・生徒一学 人が、とりなるかなかなかなかなかなを 力を定着させ ます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一	1:60%未満であった。 4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。		児童の自己評価において「学習に すかで取り組 んでは実はよく分からとでもようの現ました。 の現ました。 は、日本のは、日本のは、日本のは、日本のは、日本のは、日本のは、日本のは、日本の	4: 90%以上 3: 85%以上 2: 80%以上	1	えを学級内で共有することを通して、 〇学習カルテによる面談を行い、児 童一人一人の学力について、家庭と			・今後、土曜授業の縮小や「おおた未来づくり」の教科が増え ることにより、児童への指導を課題に置き、指導案を作成して
		人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	3				連携して共有し、個に応じた支援を行 うことができている。	Α	6	ほしい。 ・「学校の授業はよくわかる」と回答した児童が90%以上あるのは、児童の頑張りと先生方のご努力だと思います。 ・多様な子どもたちに丁寧に寄り添い、移動いただけていると 感じる。 ・教真の皆株も子どもと一緒になって学ぶ気持ちで引き続きご
プラ		算数・数学到達度をステップ学習チェック	4:学期に2~3回知らせた。 3:学期毎に知らせた。	3				○第2学年より習熟度に合わせた算 数授業展開を展開することにより、個			
ン 2		シートで児童・生徒、保護者に知らせる。	2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。					に応じた指導を実施できた。	B 指力 C E E E E E E E E E E		指導いただきたい。 ・大規模校ではありますが、個々の理解度を把握し、フォロー されていると感じます。
学力の		学習補助員等による算数·数学·英語の補 習を実施する。	4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。	3			4	○児童の実態に応じて、補習や取り 出しによる個別指導を行うことによ り、個に応じた指導を展開していく。			
			1:60%以下の教員が働きかけた。 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	Н				○授業改善推進プランをもとに、自己			
向上		授業改善推進プランを、授業に生かす。	3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。	3				申告時における授業観察では、課題 解決に向けた手立てを講じて指導案 を作成し取り組んでいる。			
_		問題解決的な学習の充実を図る授業に取 り組み、主体的対話的で深い学びのある指	1:60%未満であった。 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。	H				○校内研究では社会科・生活科にお いて問題解決的な学習の指導の充 まのために、理解的会場であったも			
		り組み、主体的対話的で深い学びのある指 導を目指している。	2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	3				実のために、課題設定場面に重点を 当てて研究を行った。教員の共通理 解を図ることができた。			
プラン	せいの正義に やり自己は有有的 をとともに、 るとともに、 もちまます。	小中一貫による教育の視点に立った生活 指導の充実により、社会のルールや学校	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。	3		4: 90% 以上		○雪谷中学校学区において、雪谷小学校とともに連携を図り、管理職や4 活指導主任が中心となり、情報共有			<ul><li>・今後も地域に密着した学校経営を行っていただき、子どもたちがより地域の行事等に参加できるように指導いただけたらと思います。</li></ul>
		のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。 4:学期に2~3回(年間6回)以上行った。	Ц				を図ることができた。 ○1学期に道徳授業地区公開講座を	Α	3	<ul><li>今後もたてわり班活動を継続し、自己有用感を育んでいただければと思います。また、モーモースクール等体験的活動も継続してほしいと思います。</li></ul>
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、 国、都及び区の資料を活用した授業等を行 う等道徳指導充実のための取組を行う。	4: 子朔に20-3回(年間8回)以上行った。 3: 学期に1回(年間3回)以上行った。 2: 年度間に1回以上行った。	3		3:		開催した。保護者の授業への参観は あったが、意見交換会への参加が少 なかった。事前に地域や保護者へ周			<ul><li>・学級にとどまらず、学年間や他校間において連携・共有を図 るのは良い取り組みである。</li><li>・学校だけではなく、様々な主体と連携の輪が広まる取り組み</li></ul>
		う寺垣徳指導尤美のための取組を行う。 学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の	1:実施しなかった。 4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。	Н	児童の自己評価 において「自分に は、よいところが	85% 以上		知を図る。	В	3	も引き続き検討いただきたい。 ・在校生の親でなくとも、時折人間関係のアレコレを耳にします。コミュニケーションが難しい時代ですが、引き続きの取り組
3		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の 結果よりストレス症状のみられる児童・生 徒に対して組織的に対応する。	3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。	3	あると思います か。」、「あなた			○学級にとどまらず学年で情報を共 有するとともに、生活指導夕会において全体への周知を図っている。個別	1	3	みを期待しています。
豊か		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめ	1:60%未満であった。 4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。	Ħ	は、学校の中で、 大切にされてい ると思います	2: 80%	2	の対応が必要な場合は、ケース会議 を行っている。			
かな心	を育成するなど、未来への	の未然防止、早期発見等のための取組を 実施する。	3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3	ると思います か。」の2項目 で、A(とても思	以上		○学校いじめ防止基本方針について、生活指導夕会で理解を深める研修を行うとともに、いじめ未然防止の	С		
の育	希望に満ち た豊かな心を	BB 03 仁 54	4:必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に 対応した。		う)B(思う)と回 答した児童の割			ための日頃の留意点について理解を 深めた。			
成	はぐくみます。	問題行動・不登校問題等にかかわる児童・ 生徒に関するケース会議等を実施する。	3:必要な事案に対しておおかた会議を実施した。 2:必要な事案に対してあまり会議を実施しなかった。 1:必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組	3	合	1:		Oいじめ防止をテーマにした道徳投 業は、教育計画に位置づけ指導を実			
		たてわり班活動を行い、小集団の中で児童が	機的な対応をしなかった。 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	Н		未満		施している。学んだ内容を日常の生活に活かすために、教育活動全般に おいて継続的に指導を行っていく。	D		
		たとれり取る期を行い、小乗団の中で先星が 発達段階においてリーダーシップを発揮することにより責任感や自己有用感をもって行動する ことができるようにする。	3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。	3							
プ	し成慣のは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 で	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を	1:60%未満であった。 4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。	H		4: 90%		○「早寝・早起き・朝ごはん」の取組 はするものの、より多くの家庭の協力			・子どもたちの健康面や体力面で授業や生活面でおろそかに ならないよう指導していただきたい。
ラン		通して、児童・生徒や保護者に対し、望まし い生活習慣についての意識啓発を行う。	3:80%以上の教員で行つた。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3	児童の自己評価 において「授業や	以上	- Cの シ単名 - 1 C和	を得ることが課題である。	A 3	3	・体力向上には、家庭と協力し「早寝・早起き・朝ごはん」の取り組みを継続していただければと思います。 ・コロナ禍の影響で、外出や運動の制限が長く続いたことも子
4		給食指導及び教科等における指導を通し て、食生活の充実・改善をねらいとした「食	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。	3	体育明会で、網 跳び、大きな 行ったりはびする。 はいし、している。 で項目で、A(と	3: 85% 以上 2:		○栄養士を中心に昔の給食や世界 の給食など、献立を工夫し、栄養バランスや食事のマナーなど、適切な情報提供を行い食育の充実を図っている。 ○運動に取り組む姿勢や体力の二種化が見られる。日頃から運動に取り組む必要を必要がある。	В	3	どもたらにとって時間であったと思う。 ・学校としてはできる限されていると思いますが、なかなか類 しい家庭の協力が不可欠)ので、引き続きよろしくお願いします。 す。
増力		育」を推進する。	2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。 4:全教員で行った。	Н							
進の向		体育的行事、部活動、休み時間など様々な 機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4: 主教員で行つた。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。	3		80% 以上			С		
上と		一校一取り組み(長縄跳び、持久走、短縄	1:60%未満であった。 4:全教員で行った。	Н	ても思う)B(思 う)と回答した児	1:		しむために、体育投業の充実や日常 化について、教員の指導力向上に向 けた研修を行っていく。			
健康		跳び)を通して、体力向上に取り組み、休み 時間の外遊びを励行する働きかけを行って いる。	3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3	童の割合	未満		〇体育的行事委員会を中心に、体育 即会を計画 取り組んでいく	D		
プ		授業公開日の授業評価を、その後の授業	1:60%未満であった。 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。			4: 90% 以上 3: 85%	- 1	朝会を計画し、取り組んでいく。 ○保護者によるアンケートに寄せら れた意見について、タブレットにより サカレブレス 学生さばり東日させ			・保護者への授業の様子や指導内容をオープンにし、日頃から「見えた学校生活」ができるように検討していただきたい。
ラン		改善に生かす。	2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3	// Am			共有している。学年主任や専科主任 が中心となり、具体的な改善に向け た具体的な手立てを講じていく。	Α	5	<ul> <li>保護者の学校評価で90%以上の方が「工夫したわかりやす い授業」と回答しています。先生方の熱心なご指導の陽物だと 思います。</li> <li>計画的なOJTや積極的に研修会に参加し、研鎖を積まれて</li> </ul>
5	児安学送教力質境す ・生安活の指と育り ・生安活の指と育り ・生のでは、 ・生のでは、 ・生のでは、 ・生のでは、 ・生のでは、 ・生のでは、 ・生のでは、 ・生のでは、 ・生のでは、 ・生のでは、 ・生のでは、 ・生のでは、 ・生のでは、 ・生のできる。 ・して、 ・して、 ・して、 ・して、 ・して、 ・して、 ・して、 ・して、	授業改善セミナー等の研修成果を生かし、 主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を	4:学期に2~3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。	3	保護は大きな。 保護は大きな向上、 大きな向上、 大きなのたがからです。 大きなのたがからです。 大きないまでで、 人とでしまりとした。 人とでしている。 人とでしている。 人とでしている。 人とでしている。 人とでしている。 人とでしている。 人とでしている。 人とでしている。 人とでいる。 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、			〇計画的にOJT研修を実施すること ができた。お互いに質問しあい、内容 を深めることができている。			<ul> <li>・計画的なOJIや積極的に動修会に参加し、前頭を積まれているのは、子どもたちや保護者にとっても大変有意義であると思う。</li> <li>・先生方が学年の枠を超えて情報交換をされているとのこと、</li> </ul>
魅力		実施しOJTを充実させる。	2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	H		以上		ができた。お互いに質問しあい、内容 を深めることができている。	в	1	・先生方が学年の枠を超えて情報交換をされているとのこと、 素晴らしいです。
ある		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、 自身の授業改善に生かす。	3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。	3		2:	4	○各種研修会に毎回教員を派遣して いる。研修した内容を伝達という形で 情報共有を図っていく。			
教育		##Z-20 A ###	1:60%未満であった。 4:月1回以上行った。	H		80% 以上		○校内委員会の開催方法が共通理	С		
環境		校内委員会等を確実に実施し、学校におけ る特別支援教育を推進する。	3:学期に2~3回行った。 2:学期1回以上行った。 1:実施しなかった。	3		1:		解されていないため、生活指導主任 に対し、教職員全体への周知を図っ た。定期的に児童一人一人の支援を 行う体制を整えていく。			
づく		授業改善推進プランにもとづいた年3回の 授業観察や、自己申告の面談において、自	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。		THE PART OF THE	1: 80% 未満		行う体制を登えている。 〇教員一人一人の経験年数に応じ、 年間の取組目標を明確にし、業務の	D		
Ŋ		己評価カードをもとに協議し、指導法の改善に取り組んでいる。	2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3				遂行状況を確認したり、指導助言を 行うことができた。			
プラ		教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び重新することにより	3:学期に2~3回更新した。	3		4: 90% 以上		○学校HPの更新は随時各分掌ごと に行うことができている。	,	,	・学校とPTAで連携し、PTAで運営している「がくぶり」をもっと 活用できればペーパーレス化ができるかと思います。 ・いきいき応援隊の活動が、子ども達の充実した学習環境を
	学校・家庭・ 地域が担う	ページ等で公開及び更新することにより、 積極的に情報を発信する。 地域教育連絡依護会において、同意・生徒	2:学期1回以上更新した。 1:更新しなかった。 4:毎回情報を提供した。	H	保護者の学校評 価において「学校			○地域教育連絡協議会を年に3回開	Α	4	構築し、地域、保護者の学校への理解を深めていることはす ばらしい事だと思います。 ・従来の手段だけではなく、デジタルツールを活用しての情報
っ て学	役割などを明 確にし、地域	地域教育連絡協議会において、児童・生徒 の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、 第1、1、1、2、2、3、3、3、3、3、3、3、3、3、3、3、3、3、3、3、	3: おおむね情報を提供した。 2: あまり情報を提供しなかった。	3	は、保護者会・学 校だより・学年だ より・ホームペー	3: 85% 以上		催し、各学期の児童の様子や指導の 成果、及び学校運営上の課題を共有 することができた。			発信等や地域の方たちと連携して積極的に学校活動の見え  る化を図っているのは素晴らしいと思う。  ・保護者はHPへの学年だよりの掲載をとても楽しみにしている
ŧ.	に開かれた 教育の実現	適正な評価を受けるよう努める。 学校支援地域本部と連携するなどして、地	1:情報を提供しなかった。 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	H	より・ホームページ等を通して学 校生活や教育内	~_		〇いきいき応援隊の活動が、各学年	В	2	ので、よろしくお願いします。
	を目指しま す。また、相	すれて仮地域や部と建族するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。	3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった	4	容について、保 護者に分かりや	2: 80%	4	の教科指導や行事に及び、地域・保 護者の学校への理解が進んでいる。 連営上の課題について共有化を図			1
め・	互の連携を 深め、子ども	家庭学習を推奨し、毎日適切な課題を提示する。また、学年の発達段階に応じて、タブ	1:60%未満であった。 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。		すく伝えていると 思いますか」の項	以上		り、解決に向け積極的に関わっていく。	С		
教域	を育てる仕組 みを作りま	する。また、学年の発達段階に応じて、タブレットを活用した課題に取り組ませている。	2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3	目で、A(とても思う)B(思う)と回答した保護者の	1:		<ul><li>○タブレットの活用が進んでいるが、 ネット環境の影響のため、ペーパー での課題提示が求められている。バー、</li></ul>	H		
体	す。				答した保護者の 割合	80% 未満		ランスよく対応していく。	D		
ځ				Н					_		
	○「世里証法」	よ、各校が4段階で定めた成果指	サート - アゲン								